

## 特集記事

## Fw:東北 Fan Meeting 2023 東北暮らし発見塾 テーマ編：住まい～陸前高田・気仙沼で知る移住と住まい

[シェア](#) [Twitter](#)

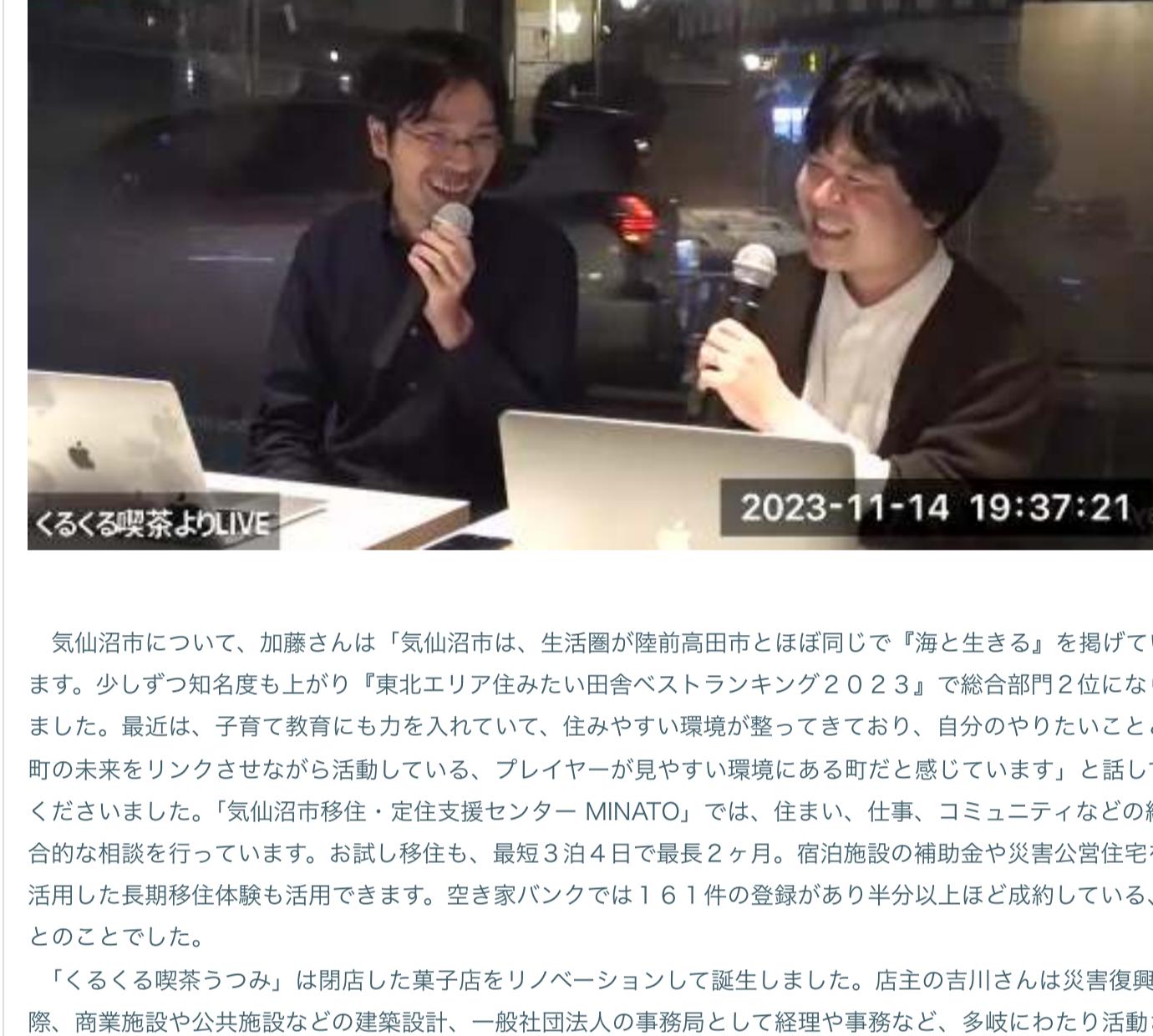
投稿日:2023年11月28日 カテゴリ: Fw:東北FanMeeting

**Fw:東北 Fan Meeting 2023 東北暮らし発見塾 テーマ編：住まい～陸前高田・気仙沼で知る移住と住まい イベントレポート****Fw:東北 Fan Meeting 2023 東北暮らし発見塾**

東北での移住をテーマとした「東北暮らし発見塾」のテーマ別開催として「住まい」を取り上げ、移住コーディネーターや有識者と交えてディスカッションを行いました。

移住の際に大きく環境が変わることのひとつに、「住まい」があり、移住先の住まいの広さや使い方にも工夫の余地がある。移住者の中には、空き家や空き店舗をリノベーションなどで移住者の住居や小商いの拠点として活用する人々もいるほか、「空き家バンク」など空き家の一覧を掲載する地域も増えていますが、三陸で隣接している岩手県陸前高田市と宮城県気仙沼市では、それぞれどのような実態や工夫があるのか、住居の課題にも取り組んでいた移住コーディネーターを迎え、地域の物件の特徴や移住者の事例、地域での受け入れ方などについて伺いました。

また、他地域ゲストとして、Fw:東北Fan Meetingで取り上げた神奈川県真鶴町で、自らも移住者として空き家活用を進めている一般社団法人 真鶴未来塾の玉田麻里さんをお迎えして、移住と住まいについての視点を提供いただきました。ディスカッションを行いました。

**(1) 登壇者自己紹介****多勢 瞳 氏 (特定非営利活動法人 高田暮舎 移住コンシェルジュ)****落 優介 氏 (特定非営利活動法人 高田暮舎 空き家バンク担当)**

陸前高田市について、多勢さんは「沿岸なので雪は降りますが積もることはほとんどありません。夏は涼しく暮らしやすい自然環境です。市の中心から端まで車で30分ほどのコンパクトシティで、車がないと不便ですが、海も山も行くことができます。マルシェなど飲食店もそろっていますし、体を動かす施設もあり、イベントも毎週のように開催されていて結構賑やかな町だと感じています」と話してくださいました。

陸前高田市では、58件の空き家を空き家バンクに掲載して、そのうちの6~7割が購入・賃貸されたそうです。海、川、山がある地域なので家もバリエーションがあり、優れた建築技術を持つ気仙大工の技術が使われている家も多いそうです。空き家の事業利用の例として、泊まれる古本屋「山猫堂」や保育園「保育園ゆいま～るたかた」が紹介されました。

お試し居住について、災害公営住宅を利用して最も1年間暮らせる制度が去年の11月からスタートしました。生活家電も備え付けられておりWi-Fiも通っているので、布団と冷暖房器具があればそのまま暮らせるそうです。現在10組が入居中で、住民同士での交流会などもあるようです。移住を検討されている方におすすめのことでした。

**加藤 航也 氏 (気仙沼市移住・定住支援センター MINATO)****吉川 晃司 氏 (くるくる喫茶うつみ 店主)**

気仙沼市について、加藤さんは「気仙沼市は、生活圏が陸前高田市とほぼ同じで『海と生きる』を掲げています。少しづつ知名度も上がり『東北エリア住みたい田舎ベストランキンギング2023』で総合部門2位になりました。最近は、子育て教育にも力を入れていて、住みやすい環境が整ってきており、自分のやりたいことと町の未来をリンクさせながら活動している、プレイヤーが見やすい環境にある町だと感じています」と話してくださいました。

吉川さんは「町に関わるチャンスでもあります。課題解決した後に来てくれるのではなく、仲間として最初から気仙沼に関わって一緒に解決する、というものが戦略としてあると思います。個人的にはその方が楽しいな、と感じています。移住だとハードルが高いかもしれないですが、まずは、『関わるし』を見つけて喫茶店などを拠点に通ってもらおうところから始めて貢献すると嬉しいです」と、思いを語ってくださいました。

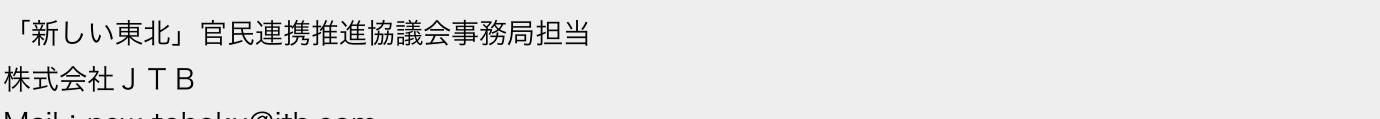
セッションの総括として原は「空き家、空き店舗は、活用の仕方次第で若い方が活躍できる場となり、移住と親和性があること。社会課題を解決する装置だったり、課題解決そのものになったりする場合もあるので『関わるし』も関係していること、広い意味での関係人口・課題ベースでの関係人口づくりという面でも空き家は大切なもの、ということがイメージできたかもしれません」と話を締めくくり、トークセッションは終了となりました。

**玉田 麻里 氏 (一般社団法人 真鶴未来塾 代表理事)**

真鶴町は、神奈川県の西端、電車に10分乗ると静岡県に着く場所で、2017年には神奈川県唯一の過疎地に認定された街です。

玉田さんは移住の際、町に空き家があるのに住む家をなかなか見つけられなくてとても苦労したそうですね。その経験から2021年度に空き家バンク窓口業務を始めました。2019年度の調査の結果、7年前の時点で568件の空き家があったそうです。現在は200名ほどの方が登録しているとのことでした。現在、利用希望60%が50代以上の方なので、若い方も移住に興味をもってもらうことが課題とのことです。

玉田さんは「パン屋やビザ食堂を開業した移住者の方もいて、最初は小さくお店を開いて、そこで縁にも横にも関係性を街の中で作り上げてから少しきめのお店に広げていく、じわじわ地域に根付いていくのが真鶴スタイルなのかなという風に日々感じています」と話してくださいました。

**(2) トークセッション ～移住と住まいを知る～**

ここから、ナビゲーターの原亮（エイチタス株式会社）も交えて、特定のお題にそって意見を述べ合うトークセッションが行われました。

移住者について、気仙沼市移住センターを通しての移住者は20代から30代が多いそうです。移住後に家族が増えて広い家へ引っ越しを検討している方、シェアハウスや学生のインターン用の住居などのニーズが増えているそうです。

空き家の向こう合いで、真鶴では「空き家勉強会」を行っています。小規模な空き店舗を活用した宿泊できる出版社「真鶴出版」をはじめ、小さな仕事を自分たちで作っていくチャレンジができる街で、皆が助け合いながら活している、とのことです。

陸前高田市の空き家バンク利用の実例として「保育園ゆいま～るたかた」が紹介されました。「保育園ゆいま～るたかた」は岩手県一関市を拠点にしています。陸前高田市では、子育てに関する課題があることについて、市役所の担当職員や市議会議員と共に認識があったそうです。つながりのあった「保育園ゆいま～るたかた」代表と協議したこと、課題解決のため陸前高田市に空き家を利用した「保育園ゆいま～るたかた」がオープンしました。

原は「市が課題解決のために外からプレイヤーを引っ張り、活用できた事例で新鮮ですね。移住・空き家コーディネーターは、つなぎ役として外との接点を増やす大事な機会だと思います」とコメントしました。

加藤さんは「町に関わるチャンスでもあります。課題解決した後に来てくれるのではなく、仲間として最初から気仙沼に関わって一緒に解決する、というものが戦略としてあると思います。個人的にはその方が楽しいな、と感じています。移住だとハードルが高いかもしれないですが、まずは、『関わるし』を見つけて喫茶店などを拠点に通ってもらおうところから始めて貢献すると嬉しいです」と、思いを語ってくださいました。

セッションの総括として原は「空き家、空き店舗は、活用の仕方次第で若い方が活躍できる場となり、移住と親和性があること。社会課題を解決する装置だったり、課題解決そのものになったりする場合もあるので『関わるし』も関係していること、広い意味での関係人口・課題ベースでの関係人口づくりという面でも空き家は大切なもの、ということがイメージできたかもしれません」と話を締めくくり、トークセッションは終了となりました。

**移住者×参加者同士のブレイクアウトセッション**

移住者と参加者の皆さんと一緒にいくつかのブレイクアウトルームに分かれ、移住・暮らし・環境についての活発な意見交換が行われました。

参加者から「紹介して頂いた場所に行きたくなった」「ゆっくり静かに暮らせるのは魅力的だと思った」「空き家活用の課題解決に良い学びとなりました」などの感想もあり、盛況のうちにセッション終了となりました。

**参考リンク**[特定非営利活動法人 高田暮舎](#)[気仙沼市移住・定住支援センター「MINATO」](#)[一般社団法人 真鶴未来塾](#)**会議概要**

日時: 2023年11月14日(火)19:00-21:00

形式: Zoomミーティングによるオンライン会議

参加者数: 29名

主催: 復興庁

企画運営: エイチタス株式会社

**協議会の会員による**

様々な復興支援活動はこち

**お問い合わせ**

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

株式会社 JTB

Mail : new-tohoku@jtb.com

Tel : 03-6737-9291

©2015 「新しい東北」官民連携推進協議会. All Rights Reserved.

**カテゴリ**

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2023

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2022

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2021

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2020

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2019

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2018

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2017

● Fw:東北FanMeeting

● インタビュー2018

● みちのくみっけ

● 東北の明日を切り拓く

● 東北の「新たな挑戦」

**復興庁**

Reconstruction Agency

**東北** 「新しい東北」

官民連携推進協議会